

# 参考資料

---



## 本県の主な災害の発生状況

災害の種類	発生日月日	被害等
大雨	昭和50年8月5日 ～7日	死者22名、重軽傷者46名 被害額 121億円（うち土木関係64億円、農林関係42億円）
	昭和50年8月20日	死者1名、重軽傷者25名 被害額 531億円（うち土木関係304億円、農林関係157億円）
	昭和52年8月5日	死者11名、重軽傷者30名 被害額 467億円（うち土木関係274億円、農林関係137億円）
	昭和57年5月20日 ～21日	被害額 165億円（うち土木関係98億円、農林関係60億円）
大雨・暴風	昭和56年8月21日 ～23日	死者2名、重軽傷者8名 被害額 492億円（うち農林関係357億円、土木関係112億円）
	昭和57年9月10日 ～13日（台風第18号）	死者1名 被害額 277億円（うち農林関係92億円）
	昭和60年9月1日 （台風第13号）	被害額 202億円（うち農林関係175億円）
	平成2年9月17日 ～20日（台風第19号）	被害額 154億円（うち土木関係78億円、農林関係68億円）
	平成2年10月26日 ～27日	被害額 200億円（うち農林関係100億円、土木関係80億円）
	平成11年10月27日 ～28日	死者1名、行方不明者1名、重軽傷者2名 被害額 342億円（うち土木関係179億円、農林関係147億円）
	平成16年9月8日 （台風第18号）	重軽傷者7名 被害額 170億円（うち農林水産関係160億円）
	平成18年10月6日 ～8日	重軽傷者1名 被害額 178億円（うち農林水産関係140億円）
暴風	平成3年9月28日 （台風第19号）	死者9名、重軽傷者255名 被害額 1,129億円（うち農林関係881億円）
地震	昭和43年5月16日 （十勝沖地震）	マグニチュード7.9 震度5 八戸、田名部、青森 震度4 弘前 死者46名、行方不明者2名、重軽傷者671名 被害額 470億円（うち農林関係114億円、水産商工関係102億円）
	昭和58年5月26日 （日本海中部地震）	マグニチュード7.7 震度5 深浦、むつ 震度4 青森、八戸 死者17名、重軽傷者25名 被害額 518億円（うち土木関係146億円、農林関係104億円、建物関係101億円）
	平成6年12月28日 （三陸はるか沖地震）	マグニチュード7.5 震度6 八戸 震度5 青森、むつ 死者3名、重軽傷者783名 被害額 755億円（うち商工労働関係477億円、建物関係122億円）
	平成23年3月11日 （東北地方太平洋沖地震）	マグニチュード9.0 震度5強 八戸、東北、おいらせ、東通、五戸、階上 <平成23年12月21日現在> 死者3名、行方不明者1名、重軽傷者47名 被害額 1,319億円（うち商工労働関係578億円、農林水産関係273億円、 県土整備関係432億円）
豪雪	昭和60年1月～3月	死者8名、重軽傷者61名、被害額 89億円
	昭和61年1月～3月	死者5名、重軽傷者81名、被害額 101億円
	平成13年1月～3月	死者10名、重軽傷者55名、被害額 137億円
	平成17年1月～3月	死者12名、重軽傷者173名、被害額 129億円
	平成18年1月～3月	死者6名、重軽傷者138名、被害額 32億円
林野火災	昭和58年4月27日	焼損面積 420.4ha（南郷村、八戸市、階上町） 被害額 6億円
	昭和58年5月4日 ～6日	焼損面積 84.48ha（五所川原市） 被害額 9千万円
	平成13年4月18日 ～19日	焼損面積 62ha（南郷村、八戸市） 被害額 9千万円
	平成17年5月4日	焼損面積 90ha（五戸町） 被害額 1億5千万円

\*過去の被害情報については、青森県防災ホームページの「主な災害履歴」を御覧ください。

# 東北地方の江戸時代以降の主要被害地震等

	西 暦	地 域	災害の種類	被 害 状 況
1	1611年9月27日	会津		若松城の石垣崩れ、殿守破損。神社仏寺の堂塔倒壊・大破多く、民家も多く潰れまたは大破し（2万余戸）、死3700余。
2	1616年9月9日	仙台		仙台城の石壁・櫓等破損。
3	1644年10月18日	羽後本荘		本荘城廓大破し屋倒れ人死す。石沢村にも潰家及び死傷者あり。
4	1646年6月9日	陸前		仙台城の石壁数十丈（1丈≒3m）崩れ、その池破損多し。白石城にも被害あり。
5	1659年4月21日	岩代・下野		会津にて民家倒壊309、死28、傷100余人、死馬6。
6	1667年8月22日	八戸		八戸市中の藩士邸宅および市街商家の建物破損おびただし。
7	1668年8月28日	仙台		仙台城本丸石垣計約90間（160m）崩れ、計約60間（約110m）孕む。
8	1674年4月15日	八戸		八戸城内ならびに諸土屋敷・町家損害多く、南宗寺の廟所も損ず。
9	1678年10月2日	陸中		花巻で城の石垣崩れ、諸士の家も損傷。町家15、主蔵5崩れ、死1。白石城破損。
10	1694年6月19日	能代地方		能代・森岡・桧山・駒形・飛根等、42力村に家屋の被害1720、土蔵の被害159、死傷者592、死馬13にのぼる。秋田城下で侍屋敷・町家少し破損。弘前付近で地割れあり。弘前城中および城の石垣破損。
11	1704年5月27日	羽後・津軽	地震・火災・山崩れ・地滑り	能代で潰家435、潰土蔵55、潰寺院4あり。ハ森村では約155戸が被害をうけた。山崩れにより、現在の12湖等の大小の湖が生ず。
12	1731年10月7日	岩代		桑折で家屋300余崩れる。白石城の石垣崩れ、仙台に被害多し。
13	1732年12月21日	津軽		津軽城所々破損。
14	1739年8月16日	陸奥・南部		青森で蔵潰れる。八戸で諸士町家ともに被害多し。
15	1755年3月29日	陸奥八戸		殿中ならびに諸建物・堀の破損多く、南宗寺の廟所も破損。
16	1763年3月11日	陸奥八戸	地震・津波	土居堀崩れ、殿宇破壊し、市中の建物の倒壊あり。
17	1766年3月8日	津軽	地震・液化化・地殻変動・火災	弘前城櫓・門等、破損12カ所、潰堂社27、潰寺33、潰家6940、死傷者1180人。貴森で全半潰547あり。
18	1768年9月8日	陸奥八戸		家屋・堀等の被害多し。
19	1772年6月3日	陸前・陸中		仙台領で墻屋の壊敗多し。
20	1782年9月21日	陸奥八戸		諸士商家の被害少なからず。
21	1793年2月8日	西津軽	地震・津波・山崩れ・地滑り	被災地全体で潰154、半潰261、大破43、土蔵潰8、同破損104、死者12。地殻変動（隆起最高3.5m）
22	1793年2月17日	陸前・陸中		仙台藩内で家屋損壊1060余。
23	1804年7月10日	羽前・羽後		潰家10180、半潰598、大破644、潰蔵777、大破蔵52、小破蔵408、小破家942、死者446人、傷者146人。
24	1810年9月25日	羽後		全潰1018、半潰400、大破387、死者59人、傷者116人。
25	1821年12月13日	岩代		潰家130、大小破300余。
26	1833年12月7日	羽前・羽後・越後・佐渡		潰家618、半潰608、破損1628。土蔵の被害では潰46、半潰4、破損290にのぼる。死者129人、傷者24人。
27	1835年7月20日	仙台		仙台城の石垣崩れ、藩内で家・土蔵破損す。
28	1848年1月13日	津軽		家や土蔵小破あるが、一部では潰家あり。
29	1861年10月21日	陸中・陸前・磐城		仙台城破損、潰家54余、土蔵の潰10余、家屋の破損多し。
30	1894年10月22日	庄内平野		全潰3858、半潰2397、破損7863、死者726人、傷者987人。
31	1896年8月31日	秋田・岩手県境	地震・津波	全潰5992、半潰3198、破損29846、死者209人、傷者779人。
32	1897年2月20日	仙台沖		全潰1、半潰数10、大破60、小破32、土蔵の大破48、小破73、破損186。
33	1900年5月12日	宮城県北部		全潰49、半潰50、破損1501、死傷者17人。
34	1901年8月9日	三八上北地区	地震・津波・山崩れ・地滑り	青森県内で死傷18人、家屋破損615、道路亀裂、橋梁破損、堤防破壊、鉄道破壊等
35	1902年1月30日	三八上北地区	地震・火災	家屋倒壊・破損、道路・堤防の亀裂等
36	1931年3月9日	八戸	地震・津波	壁の剥落、煙突の折損、八戸で津波
37	1933年3月3日	太平洋沿岸	地震・津波	地震後30分から1時間間に、北海道・三陸沿岸に津波到来。ハワイ・カリフォルニア・チリまで到来。死者多数、家屋流失多数。波の高いところで28.7m。
38	1960年3月21日	青森・岩手沿岸	地震・津波	津波発生、被害少ない。
39	1968年5月16日	北海道・青森・岩手	地震・津波・山崩れ・地滑り	潮位上昇平均5m、浅海漁業施設被害、家屋浸水、家屋倒壊、公立学校の校舎の全半壊232校

## 震度と揺れ等の状況 (概要)

<p><b>0</b> <b>【震度0】</b> 人は揺れを感じない。</p>	<p><b>1</b> <b>【震度1】</b> 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p><b>2</b> <b>【震度2】</b> 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p><b>3</b> <b>【震度3】</b> 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
<p><b>4</b> <b>【震度4】</b> ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ● 床の重い置物が、倒れることがある。</p>	<p><b>6弱</b> <b>【震度6弱】</b> ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。 ● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</p>		
<p><b>5弱</b> <b>【震度5弱】</b> ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。</p>	<p><b>6強</b> <b>【震度6強】</b> ● はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや「体の崩壊」が発生することがある。</p>		
<p><b>5強</b> <b>【震度5強】</b> ● 物につかまらなさと歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ● 固定していない家具が倒れることがある。 ● 補強されていないブロック壁が倒れることがある。</p>	<p><b>7</b> <b>【震度7】</b> ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。</p>		

地震が起きたら…

緊急地震速報を見聞きしたら…

**あわてず、まず身の安全を!!**

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- あわてて外に飛び出さない（落下物や車が危険）
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- あわてた行動、けがのもと
- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- 近づくな、門や塀、自動販売機やビルのそば
- 海岸でぐらっときたら高台へ

出典 気象庁

## 津波から命を守るために

# 津波から命を守るには避難するしかありません！

海岸で大きな揺れを感じたら…

避難の呼びかけがあったら…

- すぐに高台や津波避難所あるいは津波避難ビルなど、頑丈な建物のできるだけ上の階に避難しましょう。
- 海の中にいる人に知らせてください。
- 自動車での避難はやめましょう。

津波警報を知らせる放送やサイレンを聞いたら…



津波避難場所



津波避難ビル

### 津波避難場所などを示す標識の例

海辺の町ではこのような標識や路面のペイントなどで避難場所や経路を表示しているところがあります。



海の中にいると地震を感じないことがあります。陸にいる人が知らせましょう。



海の近くで地震による大きな揺れを感じたら、すぐに高台や津波避難場所などに避難しましょう。

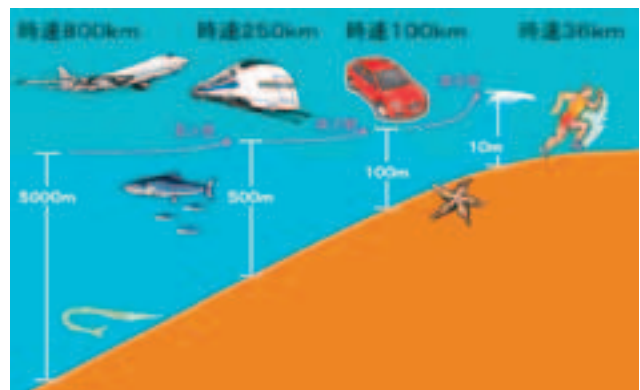
### 【津波の特徴】

- 津波の力はとても強く、たとえ50cmの津波でも、立っていることはできません。
- 津波は必ずしも引き波から始まるわけではありません。突然、押し波で襲ってくる場合があります。
- 津波は第一波より、二波目・三波目など、後からやってくる波の方が高いことがあります。特に遠く離れた外国などの地震による津波では、第一波から数時間後に最大の波となることがあります。

### 【津波は猛スピードで襲来します】

津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくとつれ後から来る波が前の波に追いつき、津波の高さが高くなります。

※津波の速度は海岸付近でオリンピック短距離の選手並です。津波が見えてから避難をはじめても間に合いません。



出典 気象庁  
仙台管区気象台

# 緊急地震速報 ～ぼくたちの命をまもるおしらせだ～

## 1 緊急地震速報を見たり、聞いたりした場合の行動等について

緊急地震速報 利用の心得 ● ぶだんから、家屋の耐震化や家具の固定など、地震に備えましょう！ ●

地震の揺れを感じたら…  
(緊急地震速報がなくても)

まわりの人にも声をかけながら

あわてず、まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞きしたら…  
(地震の揺れを感じなくても)

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れがくるまでの時間は数秒から数十秒しかありません

**家庭**では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない

**自動車運転中**は

- あわててスピードをおとさない
- ハザードランプを点灯し
- まわりの車に注意をうながす
- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす

**人が大勢いる施設**では

- 係員の指示にしたがう
- あわてて出口に走り出さない

**屋外(街)**では

- スロッキン塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意

**鉄道・バス**では

- つり革、手すりにしっかりつかまる

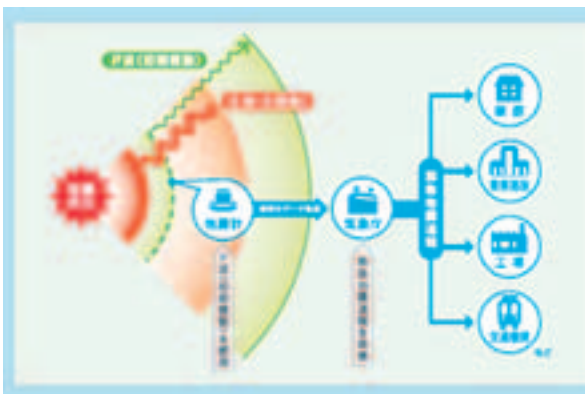
**エレベーター**では

- 最寄りの階に停止させ
- すぐにおりる

周囲の状況により具体的な行動は異なります。日頃からいざというときの行動を考えておきましょう

## 2 緊急地震速報のしくみ等について

### (1) 緊急地震速報のしくみ



- 震源近くで地震波 (P波、初期微動) をキャッチし、震源や規模、予想される揺れの強さ (震度) 等を自動計算
- 地震による強い揺れ (S波、主要動) が始まる前に素早くお知らせ
- 震度5弱以上を予想した場合に、緊急地震速報 (警報) を発表
- 時間経過とともに精度がよくなる緊急地震速報 (予報) を繰り返し発表

※ 震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合いません  
 ※ 予想した震度には±1程度の誤差が伴います  
 ※ 緊急地震速報は、予想震度の誤差などにより、発表が遅れたり、発表ができない場合があります

### (2) 緊急地震速報は、どうやって聞くことができるの？

- ① テレビ・ラジオ・・・テレビやラジオ (※1) を視聴しているときに、報知音 (※2) とともに放送されます
- ② 携帯電話・・・緊急地震速報を受信し、報知音 (※2) で知らせる携帯電話があります
- ③ 防災行政無線・・・市町村 (※1) の防災行政無線から報知音 (※2) とともに放送されます。
- ④ 受信端末など・・・受信端末 (※3) などでは、気象庁が発表する警報や予報のほか、独自に個別地点の震度などを予想し、報知します

※1 準備の整った放送局や市町村 (全国瞬時警報システム (J-ALERT) を利用) から放送が開始されます。  
 ※2 緊急地震速報専用の報知音があります。音を覚えて、その音を聞いたらとっさに身を守る行動を取れるようにしておきましょう。  
 ※3 緊急地震速報を受信し、音声報知や機器の制御を行うための装置。受信端末を導入した事業者では、法人税等の軽減措置を受けられる場合があります。

# 災害図上訓練DIG (ディグ) について

## 1. 災害図上訓練DIG (ディグ) とは？

DIG (ディグ) とは、参加者が地図を囲みながら、災害時の対応策など防災について考える訓練のことです。

Disaster (災害)、Imagination (想像)、Game (ゲーム) の頭文字をとってDIGと名付けられました。

DIGという単語には、「掘る」という意味を持つ英語であるとともに、「探求する」、「理解する」といった意味を持っています。このことから、DIGという言葉には、「災害を理解しよう」、「地域を探求しよう」、「防災意識を掘り起こそう」という意味も込められています。

## 2. 準備するものは？

- (1) 地図 (DIGを行う場合には、地域が詳細にわかる1/2500~5000程度の地図)
- (2) 透明シート (ホームセンター、梱包用品店、園芸用品店等で購入できます)  
※地図上に透明シートを重ね、このシート上に表示用のシールを貼ったり、情報を書き込んだりすることができます。
- (3) セロハンテープ (地図と透明シートを固定します)
- (4) 12色油性ペン (シートを上から地図に書き込みをします)
- (5) ベンジン、ティッシュペーパー (修正用で使います)
- (6) ふせん (メモ、地図上に表示や意見等を書き出すのに使います)
- (7) 丸型のカラーシール (地図上に表示します) ※大小多数
- (8) 模造紙 (意見を整理して発表するために使います)

## 3. DIGをやってみよう

### (1) DIGを始める前に

①参加者数や地図の大きさ等に応じて、グループ分けを行いましょう。(1グループ5名~10名程度)

②DIGの概要説明

○実施するDIGのねらいについて共通理解を図りましょう。

③防災情報の提供

○テーマや参加者などに応じて防災に関する情報提供を行いましょう。

※災害の様子を伝えるビデオの放映、防災活動体験者による講演などが考えられます。

④雰囲気づくりに努めましょう。

○グループでの作業や話し合いがスムーズに行われるよう、雰囲気づくりに努めましょう。

### (2) 地図に書き込んでいこう

①地域を知るための基本地図を作成しよう。(次のような情報を書き込みます。)

○海、河川、湖沼などの自然エリアとの境界線 【油性ペン】

○主要道路、鉄道など 【油性ペン】

○広場、公園、建物が無い広い場所 【油性ペン】

○役所、公民館、消防署、警察署、病院 【カラーシール】

○避難所、防災倉庫、食料・日用品・薬品・燃料等の販売店 【カラーシール】

※この他に、狭い道路や災害時に手助けが必要な人がいる家の場所（ひとり暮らしの高齢者、寝たきりの人、障害がある人等）などについても、書き込むことができます。

### 色分けの例

海、河川、湖沼など	油性ペン（青）	役所、公民館、消防署、警察署	緑シール（大）
鉄道	油性ペン（黒）	病院・救護所	赤シール（大）
公園、グラウンド、空き地	油性ペン（緑）	避難所となる施設	青シール（大）
主要道路	油性ペン（赤）	商店（食料・日用品・薬品等）	茶シール（大）
津波による浸水予想区域	油性ペン（水色）	防災倉庫、資機材置き場	茶シール（小）
山・がけ崩れの危険予想区域	油性ペン（茶）	ガソリンスタンド	白（大）にGSと記入

※使用する色は自由ですが、一定のルールがあると効果的です。

※避難できる広いスペースは、斜線などで網掛けしましょう。



## 4. 地図を作成したら、グループで話し合しましょう。

(1) 「災害発生時に起こりそうな被害」「地域の防災関係施設等の配置」「災害に対する地域の長所と短所」など、地図作成を通して気づいたことや感じたことを自由に話し合しましょう。

※一人ひとりが意見をふせんに記入し、地図上に貼りながら意見をまとめてみましょう。



(2) グループごとに話し合った内容について発表し、他のグループから意見や質問等を受けましょう。

発表が終わったら、進行係が中心となって、全体の感想や防災上の課題等について講評しましょう。

※詳しくは「防災図上訓練D I Gのページ (<http://www.e-dig.net>)」等のD I G作成に係るホームページを参考にするなど、災害時の対応策など防災について考えましょう。



## 災害時ボランティアの注意点

### 災害時ボランティアは自己完結が原則

阪神大震災をきっかけに、大きな災害時にボランティアの果たす役割が重要であることが認識されるようになりました。

災害時ボランティアの活動には、避難所や救援活動団体の拠点を中心として、住民の安否の確認、高齢者・障がい者・子どもの世話、救援物資の配布、炊き出しの手伝い、情報提供、被災者の生活環境の改善などのほか、直接現地へ行かなくても後方からの支援として、義援金や現地ボランティアを支援する募金、あるいは救援物資の送付などさまざまな支援方法があります。災害時のボランティアは通常のボランティアとは異なる対応が求められることに注意しましょう。

### ○災害時の救援活動は時期に応じてボランティア活動も変化します。

初 期	人命救助、負傷者の応急手当、不明者の搜索、避難誘導等
中 期	炊き出し、救援物資運搬、集配、避難所運営
後 期・復 興 期	後片付け、家屋の補修等、被災者の心のケア

※災害時のお問い合わせは、被災地の市町村社会福祉協議会ボランティアセンターまで

### ○保険に加入しておく

事故に備え、ボランティア活動保険に加入することをお勧めします。

### ○後方支援のボランティア

現地に行かなくても、後方からの支援するボランティア活動もあります。

救 援 物 資	腐りやすい食品や雑誌など救援物資とあまり関係のないものや、古い衣類が大量に送られたりすると、被災地を混乱させることになります。また、一つの段ボール箱にはできるだけ同じモノが入っている方が望ましいと言えます。被災地の状況は刻一刻と変わります。救援を呼びかける細心の情報に注意しながら、今何が求められているのかを判断する必要が大切です。
義 援 金	支援物資よりもお金の方が喜ばれることがあります。また、現地ボランティアを支援する募金もあります。日頃から活動しているボランティア団体や公的機関など信頼できる機関を利用するとよいでしょう。

## 災害ボランティアセンターの役割

### 【基本的な考え方】

災害ボランティアセンターの開設に当たっては、青森県災害対策本部（青森県庁内）、青森県ボランティア情報センター（青森県庁内）、青森県災害救護ボランティア本部（青森県社会福祉協議会内）と連携を図った上で、当初窓口を被災地における社会福祉協議会が中心となって開設し、災害救護NPOをはじめとする支援団体等と協働して災害ボランティアセンターの運営にあたる。

### 【災害ボランティアセンターの業務】

災害ボランティアセンターの具体的な業務に関しては、内閣府が発表した「災害ボランティア活動の情報・ヒント集」（災害ボランティアセンターの設置運営編）を参考に、災害規模、災害種別に応じた災害ボランティアセンターの運営につとめる。

### 【災害ボランティアセンターの担当者】

災害ボランティアセンター統括者を定め、その指揮のもと、災害ボランティアコーディネーターにより、災害ボランティアセンターを開設する。

### 【災害ボランティアセンターの責任者】

本部長（センター長）、副本部長（副センター長）等の人選に関しては、参集した各種団体との協議により決定するものとする。

### 【災害ボランティアセンターの閉鎖時期】

被災地の復旧状況をみながら、災害ボランティアセンターに参集した各種団体との協議により、閉鎖時期を判断・決定する。

### 【災害ボランティアセンターの詳細】

これ以上の詳細事項は、災害ボランティアセンターに参集した災害ボランティアコーディネーター実務者の協議により臨機応変に対応するものとする。

※県内（各市町村）の社会福祉協議会の住所・電話番号等については、青森県社会福祉協議会ホームページをご覧ください！！

出典：青森県社会福祉協議会

## 防災に役立つ情報（県内関係機関・ホームページ等）

### 【青森県の防災に関わる関係機関等について】

青森県総務部 防災消防課（青森県防災ホームページ） <a href="http://www.bousai.pref.aomori.jp/">http://www.bousai.pref.aomori.jp/</a>	青森県の災害情報や主な災害履歴、青森県地域防災計画等を公開しています。
青森県県土整備部 河川砂防課 <a href="http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/">http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/</a>	河川、土砂災害等の災害情報や雨量水位情報、ハザードマップ等が掲載されています。
青森地方気象台 <a href="http://www.jma-net.go.jp/aomori/">http://www.jma-net.go.jp/aomori/</a>	青森地方気象台が発表する警報・注意報・気象情報等の防災情報や、青森県内のアメダス等観測資料を、わかりやすくご覧になることができます。
日本赤十字社青森県支部 <a href="http://www.aomori.jrc.or.jp/">http://www.aomori.jrc.or.jp/</a>	救急法、水上安全法等が掲載されています。
青森県社会福祉協議会 <a href="http://aosyakyo.or.jp/">http://aosyakyo.or.jp/</a>	ボランティアに係る情報や災害ボランティアセンターへの支援活動の報告、県内の社協一覧等についての情報があります。
NPO法人青森県防災士会 <a href="http://www.aomoribousaishi.jp/">http://www.aomoribousaishi.jp/</a>	防災に関する活動情報や自然災害に対する基礎知識等が掲載されています。

### 【災害・防災教育等関連情報について】

内閣府 防災情報ページ <a href="http://www.bousai.go.jp/">http://www.bousai.go.jp/</a>	わが国の防災に関する内容が豊富に掲載され、防災全般について学べるWebページです。
国土交通省 防災情報提供センター <a href="http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/">http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/</a>	河川、土砂災害、地震、津波等の災害情報が集約され、情報等も充実しています。
消防庁ホームページ <a href="http://www.fdma.go.jp/">http://www.fdma.go.jp/</a>	「生活密着情報」には、防災に係わる様々な情報があります。その中には、学習教材「わたしの防災サバイバル手帳」や防災教材「チャレンジ！防災48」などが掲載されています。
気象庁ホームページ <a href="http://www.jma.go.jp/jma/index.html">http://www.jma.go.jp/jma/index.html</a>	「気象等の知識」では、台風、地震、津波などの自然災害について、わかりやすく解説しています。
消防庁防災危機管理e-カレッジ <a href="http://www.e-college.fdma.go.jp/">http://www.e-college.fdma.go.jp/</a>	防災や危機管理について、基本から上級まで幅広く学ぶことができます。「大地震を3日間生き延びる！」や「風水害から身を守る！」など、発達段階に応じた実践的に活用できます。
気象庁 はれるんランド <a href="http://www.jma.go.jp/jma/kids/">http://www.jma.go.jp/jma/kids/</a>	防災に関する学習や質問、ゲーム等があり、楽しく学ぶことができます。
独立行政法人 防災科学技術研究所 <a href="http://www.bosai.go.jp/">http://www.bosai.go.jp/</a>	専門的な地震データを見ることができ、子どもたち自然災害について学ぶこともできます。
防災教育チャレンジプラン <a href="http://www.bosai-study.net/top.html">http://www.bosai-study.net/top.html</a>	「防災教育事例集」や「防災に役立つリンク集」など、防災教育に関する多くの情報があります。
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター <a href="http://www.dri.ne.jp/">http://www.dri.ne.jp/</a>	子ども向けのページでは、自然災害や防災に関する基本をわかりやすく解説しています。
消防防災博物館 <a href="http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi">http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi</a>	インターネット上の仮想博物館です。自然災害に関する基礎知識などをわかりやすく学ぶことができ、防災ゲームなどもあります。
NTT東日本災害用伝言ダイヤル <a href="http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/">http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/</a>	地震等の災害の際に開設される「災害用伝言ダイヤル」の仕組みや利用方法、模擬体験コーナーなどがあります。
災害図上訓練DIGのページ <a href="http://www.e-dig.net/">http://www.e-dig.net/</a>	災害図上訓練（DIG）の基本的な解説があり、DIGのマニュアルをダウンロードすることができます。
市民防災ラボ <a href="http://bosailabo.jp/report/museum/">http://bosailabo.jp/report/museum/</a>	全国にある防災体験館（防災センター・防災館）データなどの情報があります。

## 学校における防災教育に協力できる研究者及び関係機関・団体一覧

研究者又は機関・団体名	連絡先	活動内容	協力できる内容
県総務部防災消防課	TEL 017-734-9088	○県の災害対策の総括 ○県の防災対策の総合的企画	防災対策に関する情報提供 ○青森県の主な災害 ○近年の災害 ○日ごろの備えや心構え等
県県土整備部河川砂防課	TEL 017-734-9662	○洪水、土砂災害の対策工事や避難の目安となる雨量水位情報や土砂災害警戒情報、浸水想定区域図、土砂災害警戒区域等を提供している。 ○小中学校生を対象に雪崩防災教室を開催している。	○洪水、土砂災害、雪崩等への対応について
青森河川国道事務所 ※国土交通省の出先機関	TEL 017-734-4560	○洪水の対策工事や避難の目安となる雨量水位情報や浸水想定区域図等を提供している。 ○出前講座を開催している。	○洪水への対応について
国立大学法人弘前大学	代表TEL 0172-36-2111 総務グループ 総務担当	<p>【大学院理工学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小菅 正裕 氏               <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地震観測、地震活動・地震の起こり方・地震波の伝わり方の研究</li> <li>2 学校の児童生徒・教職員・PTAを対象にした講演（簡単な実験・実習を含む）</li> </ul> </li> <li>○ 石田 祐宣 氏               <ul style="list-style-type: none"> <li>1 風水害対策に関する教育</li> <li>2 授業形式の指導</li> </ul> </li> <li>○ 津村 浩三 氏               <ul style="list-style-type: none"> <li>1 建築構造物の地震応答、耐震補強</li> <li>2 講演、授業形式の指導</li> </ul> </li> <li>○ 有賀 義明 氏               <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地盤と構造物の耐震性能照査と地震対策技術の研究、緊急地震速報等を活用した地震防災技術の研究</li> <li>2 地震防災に関する出前講義</li> </ul> </li> <li>○ 佐々木 実 氏               <ul style="list-style-type: none"> <li>1 火山の活動史についての研究</li> <li>2 青森県内の火山活動史、噴火災害に対する防災についての情報提供</li> </ul> </li> <li>○ 片岡 俊一 氏               <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地震動予測、地震動と地盤との関係、地盤構造の推定について</li> <li>2 地震防災に関する出前講義</li> </ul> </li> </ul> <p>【教育学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①小岩 直人               <ul style="list-style-type: none"> <li>1 自然地理分野</li> <li>2 地形の成り立ちおよび地形と災害との関係に関する出前講義</li> </ul> </li> </ul> <p>【農学生命科学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①檜垣 大助               <ul style="list-style-type: none"> <li>1 土砂災害（とくに斜面災害）</li> <li>2 土砂災害とその対策に関する講義や現地見学</li> </ul> </li> </ul>	

八戸工業大学大学院 建築工学専攻 教授 月館 敏栄	TEL/FAX 0178-25-8090 アドレス tsukidat@hi-tech. ac.jp	○東北地方の自然災害の歴史研究 ○雪害と雪対策を活かした街づくり ○自然景観を活かした街づくり	○自然災害と街づくりについて ○災害特性と災害対策の歴史 ○学校における安全教育 ○景観や街並みにみる災害対策 など
八戸工業大学	TEL 0178-25-3111	○地震や津波に関する研究 ○街や建物の安全性に関する研究 ○道路・橋・港湾施設の研究	
青森地方気象台	TEL 017-741-7413	○気象の予報・観測、地震・津波・火山の監視 ○防災気象情報の提供 ○防災気象情報の普及・啓発 ○地域防災計画作成の支援	○避難マニュアル等作成支援 ○防災に関する副読本等資料作成の協力 ○緊急地震速報の訓練への支援
NPO法人青森県防災士会	TEL 017-765-3241	○防災弱者（障害者・高齢者・子供）防災教室 ○行政の総合防災訓練や学校の関連行事への参加 ○県内市町村の「自主防災組織率」向上への取り組み ○災害・減災・備蓄対策の普及・啓蒙	防災キャンプ・聴覚障害者・視覚障害者のコース等があります。 【内容】 ○紙芝居「稲むらの火」の読み聞かせ ○いろいろなSOS ※国際的に使われている救助信号を楽しく学習 ○自然災害のしくみ ○避難の仕方と避難所生活 ※避難についてのイロハと「災害時要救護者」の学習など、様々あります。  ※その他、防災関連ではほとんど協力できます。詳しくは、青森県防災士会HPを御覧ください。
社会福祉法人 青森県社会福祉協議会	電話 017-723-1391 FAX 017-723-1394	・市町村社会福祉協議会活動への支援及び連絡調整 ・青森県ボランティア・市民活動センターの運営 ・福祉教育の推進 ・災害ボランティアコーディネーターの養成 ・善意銀行の運営	○ボランティア活動に係る情報提供及び講師等の派遣（職員派遣、地域マンパワーの調整） ○ボランティア保険の加入 ※窓口：市町村社会福祉協議会及び県社会福祉協議会が運営するボランティアセンター
日本赤十字社青森県支部	TEL 017-722-2011 FAX 017-735-3502	災害救護事業、青少年赤十字事業、血液事業、病院経営、社会福祉事業、国際活動、看護師養成、救急法等講習事業	○救急法等講習 ※問合せは事業推進課まで

